

平成29年度 若者等活動拠点施設整備に向けた取組み経過

平成30年4月
高山市企画部企画課

1. 事業概要

古い町並の下町エリアの伝統的建築物（旧村田邸）を活用し、美しい町並み景観の保全を図るとともに、若者の想いや願いを実現できるような拠点施設の整備を進めるもの。

平成29年度に公募市民らによる検討会を開始するとともに、平成30年度の詳細設計、平成31年度の改修工事を経て、平成32年度初頭のオープンを目指す。



2. 平成29年度の主な取組み経過

市民公募の検討会については、平成29年10月から11月にかけてメンバーの公募を行い、高校生や市職員も含む67名に市の関係課（事務局）や大学教授、学生等が加わり、現地見学会のほか5回にわたる検討会により議論を重ねてきた。

その他、市議会の総務環境委員会のほか、市内の高等学校との意見交換、地元団体等との意見交換、関連事業として大学連携センターで実施した下町デザイン講座などで意見等を伺った。

これらの議論等を踏まえ、平成30年度以降の検討会における議論に向けて「3. 施設整備の方向性」のとおり論点整理し、検討メンバーで確認した。

【市議会の総務環境委員会】

9/20(木) 若者等活動拠点施設（仮称）の整備について

【市内の高等学校との意見交換会】

10/11(水)、12(木)、13(金)、16(月)、17(火) 市内の各高校、特別支援学校、高山自動車短大

11/9(木) 飛騨地区高校連絡会（飛騨地区の学校長、副校長）

※その他にも随時、電話や面談による協議等を実施

【地元団体等との意見交換会】 参加人数はスタッフを除く（以下同様）

日時	場所	参加者	参加者
11/2(木) 19:00～20:40	まちひとプラ座 かんかこかん	下二之町町内会 1班	18名
11/29(水) 19:00～20:00	高山信用金庫 本店会議室	飛騨高山伝承地域活性化推進協議会 下一・二・三之町町内会	17名
12/14(木) 19:30～20:45	まちの博物館 研修室	景観町並保存連合会 保存会長	18名
1/8(月・祝) 11:30～12:45	市役所地下 大会議室	下二之町町内会 1班 大学教授、学生、NPO 法人代表	15名

※その他にも随時、電話や面談による協議等を実施

【下町デザイン講座（関連事業として飛騨高山大学連携センターが実施）】

回	日時	場所	主な内容	参加者
1	11/4(土) 14:00～16:30	高山信用金庫 本店会議室	横浜国立大野原准教授による座学 ワークショップ「若者がやりたいこと」「あなた が行きたいまち」、グループ発表	25名
2	11/5(日) 10:00～12:00	高山信用金庫 本店会議室 ・下町界限	下町界限のフィールドワーク 路地裏や特徴的な建物など地元参加者の解説を 受けながらまち探検（旧村田邸含む）	24名
3	12/16(土) 14:00～16:30	高山信用金庫 本店会議室 ・下町界限	野原准教授による座学 「訪れる」「暮らす」「商う」のグループに別れ てフィールドワーク	25名
4	12/17(日) 10:00～12:00	高山信用金庫 本店会議室	第3回フィールドワーク調査結果について、各 グループ発表、野原准教授による講評	24名
5	1/7(日) 14:00～16:30	高山信用金庫 本店会議室	参加者による個人発表「こういう下町であって ほしい→そのためにできること」 野原准教授、東大西村教授等による講評	22名

【公募市民による検討会】

回	日時	場所	主な内容	参加者
	12/16～24	旧村田邸	現地見学会7回	52名
1	1/8(月・祝) 9:30～11:15	市役所 地下大会議室	事業概要の説明 大学教授等サポートメンバーの紹介 ワールドカフェ方式による自己紹介	43名
2	1/29(月) 19:00～20:50	市役所 地下大会議室	地元住民によるミニ講座 下町デザイン講座の報告 利活用方法を考えるワークショップ	31名
3	2/10(土) 9:30～12:00	市役所 201・202 会議室	グループ毎に具体策をワークショップ ①癒しや憩い ②発表や展示 ③学びや語り ④祭や地域文化 ⑤劇場や宿泊等の専用施設	21名
4	2/28(水) 19:00～21:10	市役所 201・202 会議室	これまでの検討の論点整理(案) ワークショップ、質疑応答	30名
5	3/21(水・祝) 9:30～11:15	市役所 地下大会議室	都市整備課（公共建築・まちづくり）説明 文化財課（伝統文化）資料配付 ワークショップ、今年度検討会のまとめ	29名

3. 施設整備の方向性について（第5回検討会で確認）

（1）ハード面について

No.	項目	考え方	備考
1	外観	現状の外観は技術的制約のない限り生かした復原又は改修とし、周辺の景観と調和のとれた形での修理を進める。	
2	耐震補強	公共施設として必要な耐震性を確保できるよう補強する。 [補足]詳細設計によるが、耐力壁の増設なども想定される。	△
3	シロアリ対応	シロアリ被害を調査し、必要に応じた対応を行う。	
4	断熱対策	通年利用を想定した断熱対策を進める。	△
5	バリアフリー対策	子どもやお年寄りなど、安全に利用できるよう、バリアフリー対策を施す。	△
6	間取り	現状の建物の間取りは技術的制約のない限り生かした形での整備を進める。	
7	水回り・電気等設備	水回り（厨房・トイレ）、電気等の設備は、安全性や快適性を考慮し、全面的にやり直す。 厨房・トイレは、グループ・団体でも利用が可能な規模を想定する。（一般的な公民館のイメージ）	△
8	内壁・欄間	価値の高い現状の内壁・欄間は技術的制約のない限り生かす形での整備を進める。	
9	2階・階段	2階も活用可能とする。そのためには、階段を適当な場所に作り直す、エレベーター棟を別に設けるなどの手法が考えられるが、伝統建築の保全、技術的・予算的な制約を踏まえ、今後議論する。	△
10	土蔵	土蔵は、現状を技術的制約のない限り維持した状態で、一部は建物備品、展示品、祭用具等の物置として活用するほか、残りは利用目的に応じた形で改修を行う。	
11	中庭	季節感や癒しを感じられる庭園とし、活動スペースも確保する形で整える。 水回り建物は、適当な場所に配置し直す。	
12	駐車場等	自動車の駐車スペースは、敷地外で確保する。（人や荷物の乗降に留める） 自転車の駐輪スペースは、敷地内に少数確保するほか敷地外で確保するなど、路上駐輪にならない方策を検討する。	△
13	常設の設備等	常設の大型スクリーン、ステージ等は、設置しない。 ただし、容易に設置できるような可動式の備品対応は今後の議論を踏まえ検討する。	

備考欄△印の項目は、考え方や程度に意見が出たため、30年度に引き続き検討することとした。

(2) ソフト面について

No.	項目	考え方
1	宿泊	宿泊専用施設とした整備は行わず、宿泊も不可とする。 [補足]ワークショップ意見では、「宿泊施設」、「民宿（民泊）」といった意見もあったが、実際に宿泊施設とするためには、大規模な改造(改修)が予想され建物自体の価値を損なう懸念があることに加え、整備後の運営にも課題が多い。
2	食堂・レストラン	食堂・レストラン等の専用部分を常時確保するような整備は行わない。 ただし、行事等として施設の一部を活用しての飲食は可とする。 [補足]宿泊施設と同様
3	劇場、映画館等	劇場、映画館等の専用部分を常時確保するような整備は行わない。 ただし、行事等として施設の一部を活用しての実施は可とする。 [補足] 宿泊施設と同様
4	喫煙	全館（敷地内）禁煙とする。（周辺の道路は路上喫煙も禁止）
5	装飾	生家である村田瑞枝さんの絵画を可能な場にて展示する。
6	管理者（管理組織）	開館時間中は、常駐の管理者を置く。 （参考：まちの博物館午前9時～午後9時） 場合によっては、主旨を理解し、適切に管理・運営できる組織（団体・NPO）が行うことも検討する。

※検討会の議事録など、本事業について詳しくは、高山市のホームページで紹介しています。

行政情報トップページ>市政情報>大学連携・若者支援>若者等活動拠点施設

<http://www.city.takayama.lg.jp/shisei/1008717/1009353/index.html>

【お問合せ】

高山市役所 企画部 企画課

課長：北村、係長：前田

TEL:0577-35-3131 (DI)

e-mail:kikaku@city.takayama.lg.jp



地元団体との意見交換会



第1回検討会



第3回検討会



高校生による現地見学会



第2回検討会



第4回検討会



第5回検討会

若者の活動拠点施設として候補にある旧村田邸—高山市下二之町で

「若者の願い実現の場に」

高山市 旧村田邸を活用

高山市は二〇二〇年度 行政が協力して改修し、をめぐり、高山市中心部 高校生や学生らのサテライトキャンパス、交流点を整備する。二十日の市議会・総務環境委員会で報告した。若者たちが

地域で生き生きと暮らすため活動や交流を行うとともに、地域の景観を維持する目的。市が国交省の「景観まちづくり刷新モデル地区」に選ばれたことからの国の補助を受けて整備する。

旧村田邸は明治初期に繭の卸売業「村半」の店舗兼住宅として建築され、二階建ての母屋や倉庫、三棟の土蔵などを持つ延べ床面積六百九十五平方メートル。市内最大級の町家で改修が少なく、古い町並や商店街へのアクセスマも良いことから選んだという。

今年度から同施設の活用について若者とともに検討し、平成三十一年度に着工、三十二年の供用開始を予定している。

9/20市民時報

9/21中日新聞

(我野文菜)

旧村田邸を若者活動拠点に 市が32年度の供用開始を予定

旧村田邸(下写真)を「若者等活動拠点施設(仮称)」として整備する予定であることが分かった。これは二十日の市議会・総務環境委員会で報告した。若者たちが

地域で生き生きと暮らすため活動や交流を行うとともに、地域の景観を維持する目的。市が国交省の「景観まちづくり刷新モデル地区」に選ばれたことからの国の補助を受けて整備する。

旧村田邸は明治初期に繭の卸売業「村半」の店舗兼住宅として建築され、二階建ての母屋や倉庫、三棟の土蔵などを持つ延べ床面積六百九十五平方メートル。市内最大級の町家で改修が少なく、古い町並や商店街へのアクセスマも良いことから選んだという。

今年度から同施設の活用について若者とともに検討し、平成三十一年度に着工、三十二年の供用開始を予定している。

9/20市民時報



下町のデザインを考える 大学連携センターが講座

飛騨高山大学連携センターが四日に高山信用金庫本店で「みんなで考える下町のデザイン講座」を開き、高校生と六十歳の市民ら二十六人が参加した。

これは市が下二之町に「若者等活動拠点施設」の整備を計画していることから、魅力ある街づくりや上町から下町へ観光客を回遊させる方法を検討するもの。来年一月まで講義やフィールドワークを五回実施する予定で、今回はその第一回目。

この日は、高山市文化財総合的把握基礎調査などに携わった横浜国立大学大学院・野原卓准教授が下町の歴史や特徴などを話した(左上写真)。

11/6市民時報